

JAグループ広島営農通信

今回紹介する内容

■ 米穀情報

米穀情勢 JAグループ広島による米穀事業の取組み等について

■ 園芸情報

園芸情勢 販売経過および情勢見通し

■ 営農情報（肥料・農薬情報）

冬作ハウレンソウの栽培管理について

春施用でも間に合う！新たな水稻増収対策

「水稻雑草防除の省力技術」～担い手アグリサミットでも紹介～

■ トピックス

チャレンジファーム広島・三原農場の開設

肥料の銘柄集約・共同購入運動の実施状況について

■ 農機情報

農機レンタルのラインナップについて

共同購入トラクターのご紹介



お問合せ先は下記までお願いします

営農支援室（電話 082-847-4706）

改革推進課（電話 082-847-4701）

1. 平成29/30年及び平成30/31年の主食用米等の需給見通しについて

農水省が12月5日に発表した平成29年産水稻の全国の作況指数は100の「平年並み」となりました。全国的な需給改善の取組み等により主食用米作付面積は137万ha、主食用米の収穫量は730万6千トンが見込まれています。

平成30年産から生産数量目標の配分が廃止になるなか、国は平成31年6月末民間在庫量が安定供給を確保できる水準（180万トン）になるものとして、平成30年産主食用米等生産量を平成29年産の生産数量目標と同水準の735万トンに設定しました。

○平成29/30年の主食用米等の需給見通し（単位：万トン）

平成29年6月末民間在庫量	A	199
平成29年産主食用米等生産量	B	731
平成29/30年主食用米等供給量計	C = A + B	930
平成29/30年主食用米等需要量	D	744
平成30年6月末民間在庫量	E = C - D	187

○平成30/31年の主食用米等の需給見通し（単位：万トン）

平成30年6月末民間在庫量	A	187
平成30年産主食用米等生産量	B	735
平成30/31年主食用米等供給量計	C = A + B	922
平成30/31年主食用米等需要量	D	742
平成31年6月末民間在庫量	E = C - D	180

※ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

2. JAグループ広島による米穀事業の取り組み内容

- 平成30年産から計画生産に基づく全面的な買取への移行
- 実需者への直接販売の拡大
- 精米工場を核とした製品加工と地域ブランド商品（JAの結び米）の展開
- 業務用実需者と連携した複数年契約栽培による生産から販売までの仕組み構築
- 省力低コストおよび多収穫栽培技術の普及拡大

3. 生産者とお米 JAの結び米

JA全農ひろしまでは、少量の原料（玄米1袋）から製造可能な新精米ラインを導入し、精米HACCP手法に基づく食品安全衛生管理・品質管理のもと、県内各地で取り組まれている“こだわり”を商品化し、生産者と消費者との結び付けを行っています。



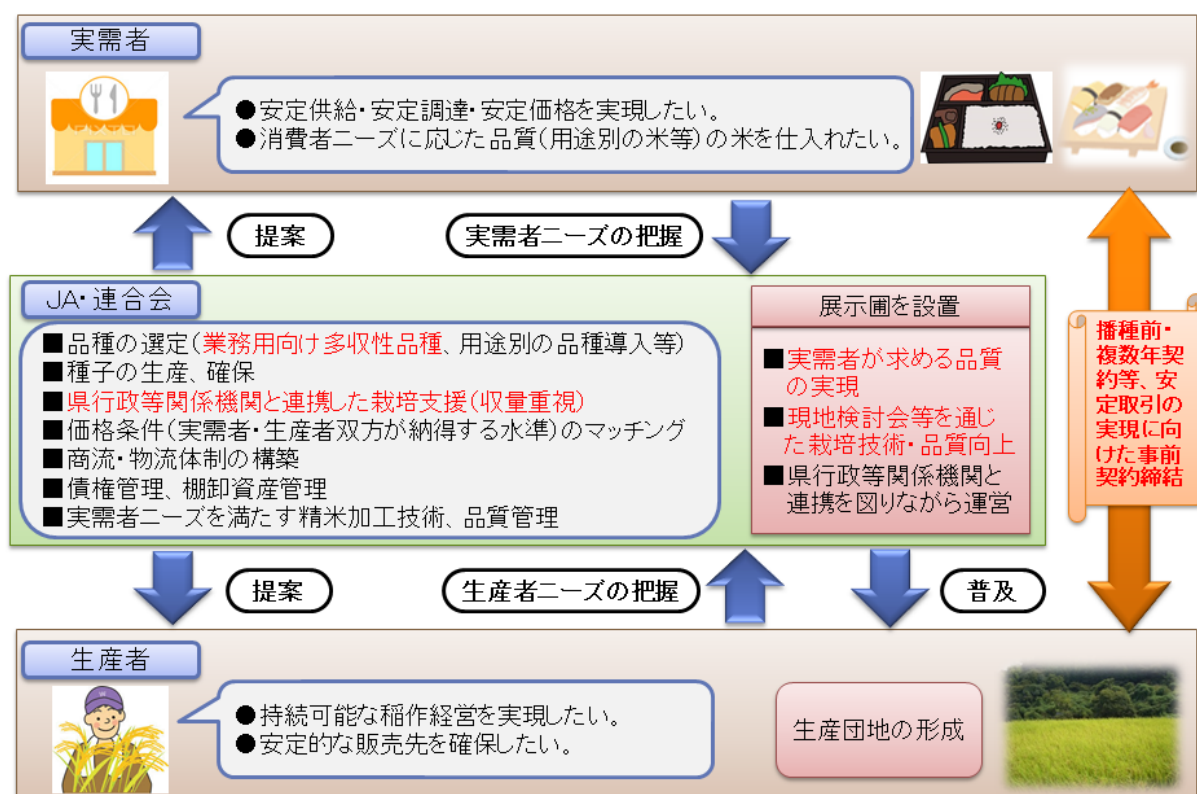
○JAの結び米商品（例）



4. 中食・外食実需者との契約栽培の取り組み

米の需給調整の取り組みにより全国での主食用米全体の需給は均衡しているが、中食・外食実需者向けの業務用米では需要量より生産量が少ないというミスマッチが生じています。JA全農ひろしまではJA結び米などの地域ブランド米のみならず、業務用米の需要にも応じた生産・販売を複数年契約の導入とともにとり進めてまいります。

○取り組みイメージ



5. ひろしま米の広告宣伝の取り組み

JAグループ広島では、ひろしま米のPR、ひろしま米商品の販売拡大を図るため、「JAお米のアンバサダー」をPR大使として様々な取り組みを行っています。

○テレビCM ※12月上旬から広島民放4局で放映開始



あきさかり・あきろまん 編



恋の予感 編

お問い合わせ先 JA 全農ひろしま 米穀総合課 082-431-5450

青果物 平成 29 年 11 月の販売経過

10 月の天候は、上旬では移動性高気圧に覆われて晴れの日が多く。中旬から下旬にかけては低気圧が発達しながら通過したため、その後は冬型の気圧配置となり、寒気が流れ込むことにより寒い日が続きました。

そのようななか、広島県本部の青果物の取扱状況は、11 月末累計の卸売市場仕向けについては、出荷重量 9,678 t（前年比 97%）、販売金額 3,304 百万円（前年比 91%）となっています。単価は 341 円（前年比 93%）で、数量減の単価安で推移しました。

全農広島県本部の販売状況（平成 29 年 4 月～11 月累計）

	数量		金額		単価	
	(t)	前年比	(千円)	前年比	(円/kg)	前年比
野菜合計	9,678	97%	3,303,629	91%	341	93%
トマト	2,627	94%	797,085	96%	303	103%
青ねぎ	1,225	100%	682,785	88%	557	87%
アスパラガス	295	82%	335,118	85%	1,135	103%
ほうれんそう	384	101%	235,597	94%	612	94%
小松菜	732	128%	205,132	113%	280	88%
きゅうり	583	105%	154,346	91%	264	87%
わけぎ	218	130%	142,931	99%	655	76%
だいこん	1,282	100%	110,472	73%	86	74%
ミニとまと	196	98%	109,005	90%	556	92%
くわい	58	109%	74,433	97%	1,279	88%
なす	289	93%	59,274	84%	204	90%
白ねぎ	122	147%	41,557	139%	339	94%
その他豆科野菜	39	103%	37,320	82%	957	81%
その他葉茎菜類	74	97%	37,234	97%	504	99%
キャベツ	616	77%	34,610	46%	56	61%
青梗菜	93	84%	33,885	82%	366	98%
きぬさや豌豆	14	88%	27,951	79%	1,928	87%
ばれいしょ	154	75%	27,509	69%	178	92%

※全農広島県本部の主要取扱品目

◆ 11月単月の概況

【数量】

○トマト、青ねぎ・小松菜は、前年度の単月を上回る出荷数量となりました。

※3品目合計 251t（前年単月比 124%）

○果菜類は、夏場の高温の影響から回復基調となっており、なかでもトマトは 77 トン（前年単月比 171%）と大きく前年を上回りました。

○11月単月の総出荷量は 839 t となり、前年比 100%と昨年並みとなっています。

【金額・単価】

○11月単月で全体の平均単価は 462 円/kgとなり、前月比で 141%と著しく上昇していますが、単価高であった前年同月と比較すると 94%で安値となっています。

○11月単月の出荷量は前年並みとなったものの、単価安のため販売金額は 387,935 千円（前年比 94%）で終了しました。

◆ 11月単月の販売取組

○11月も引き続き量販店での販売促進を開催し、産地PR・販売強化に向けて積極的に取り組みました。

また、秋冬作物（白ねぎ、キャベツ等）を中心に、業務・加工用も含めて、提案強化に努めました。（実施内容）

量販店でのフェア（キャベツフェア：イオン宇品店、北広島野菜フェア：フレスタ横川店）

⇒県域で取り組むキャベツを量販店で販売。初の試みとなる、キャベツ量り売りを実施し好評を得ました。



北広島野菜フェアの様子



キャベツフェアの様子

◆ 1 2 月見通し

(1) 入荷量の見通し

① 1 2 月の主要野菜（19品目）の入荷量は、平年を下回る水準と見込まれます。

ア)「平年を上回る」と見込まれるのは、なす、いちごの2品目です。

イ)「平年を下回る」と見込まれるのは、にんじん、はくさい、キャベツ、ほうれんそう、白ねぎ、レタス、きゅうり、ミニトマト、ピーマン、ばれいしょ、さといも、たまねぎ、ごぼうの13品目です。

ウ)「平年並み」と見込まれるのは、だいこん、青ねぎ、普通トマト、れんこんの4品目です。

(2) 卸売価格の見通し

① 1 2 月の主要野菜（19品目）の卸売価格は、平年を上回る水準と見込まれる。

ア)「平年を上回る」と見込まれるのは、だいこん、にんじん、はくさい、キャベツ、ほうれんそう、白ねぎ、レタス、なす、普通トマト、ミニトマト、ピーマン、さといもの12品目です。

イ)「平年を下回る」と見込まれるのは、きゅうり、ばれいしょ、れんこんの3品目です。

ウ)「平年並み」と見込まれるのは、青ねぎ、たまねぎ、ごぼう、いちごの4品目です。

○品目別の入荷量、卸売価格の見通しは以下の通り。

品 目	1 2 月の入荷量		1 2 月の卸売価格		(参考) 前年 1 2 月の主産県シェア (%)
	平年比較	(参考) 前年比較	平年比較	(参考) 前月比較	
だ い こ ん	=	=	△	=	長崎(64) 鹿児島(14) 福岡(8) 広島(4)
に ん じ ん	▼	▼	△	=	長崎(69) 熊本(15) 香川(7)
は く さ い	▼	▼	△	=	大分(35) 岡山(18) 鹿児島(18) 熊本(14)
キ ャ ベ ツ	▼	=	△	△	愛知(45) 福岡(11) 宮崎(8) 広島(7)
ほうれんそう	▼	▼	△	▼	福岡(50) 広島(25) 熊本(7) 鳥取(6)
青 ね ぎ	=	=	=	▼	広島(67) 大分(7) 福岡(6) 愛媛(5)
白 ね ぎ	▼	△	△	=	鳥取(47) 広島(25) 大分(13) 島根(6)
レ タ ス	▼	▼	△	▼	香川(37) 長崎(30) 福岡(24)
き ゆ う り	▼	=	▼	=	宮崎(40) 熊本(14) 佐賀(11) 鹿児島(11)
な す	△	△	△	▼	福岡(63) 熊本(16) 佐賀(15) 高知(3)
普 通 ト マ ト	=	△	△	△	熊本(71) 宮崎(14) 島根(7)
ミ ニ ト マ ト	▼	=	△	△	宮崎(43) 熊本(41) 佐賀(8)
ピ ー マ ン	▼	=	△	▼	宮崎(41) 鹿児島(27) 輸入(18) 高知(11)
ば れ い し ょ	▼	△	▼	=	北海道(91) 長崎(7)
さ と い も	▼	▼	△	△	愛媛(75) 宮崎(10) 大分(5)
た ま ね ぎ	▼	▼	=	=	北海道(97)
ご ぼ う	▼	▼	=	△	青森(53) 北海道(19) 輸入(9)
れ ん こ ん	=	=	▼	△	山口(57) 広島(41)
い ち ご	△	△	=	=	佐賀(51) 熊本(24) 福岡(16)
品 目 計	▼	=	△	△	

注：「平年」とは、直近5か年の平均値である。

※この資料の内容は平成29年11月27日現在で見込んだものであり、気象条件等により変動があり得る。

※主要野菜の入荷量及び卸売価格の見通のコメント及びグラフは平成29年11月30日中四国農政局園芸特産課の発表内容による。

(参考) 広島市中央卸売市場における品目別の入荷量の推移

単位：トン

品 目	9月上旬		9月中旬		9月下旬		10月上旬		10月中旬		10月下旬		11月上旬		11月中旬	
	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比
だいこん	307	87%	347	87%	432	115%	388	85%	435	102%	392	84%	374	91%	486	102%
にんじん	256	106%	221	90%	220	88%	250	92%	217	76%	268	92%	228	89%	253	106%
はくさい	209	95%	252	90%	352	112%	358	88%	591	139%	482	97%	483	111%	513	111%
キャベツ	495	86%	523	93%	551	101%	510	90%	607	106%	612	101%	534	101%	535	100%
ほうれんそう	17	114%	24	135%	29	126%	32	91%	46	119%	35	59%	31	59%	36	66%
青ねぎ	57	109%	66	121%	63	116%	50	92%	69	132%	56	99%	42	95%	38	86%
白ねぎ	28	70%	28	61%	44	86%	42	73%	40	60%	69	86%	65	90%	83	112%
レタス	217	80%	239	96%	266	113%	211	96%	249	119%	180	71%	156	71%	143	67%
きゅうり	172	90%	166	76%	175	91%	136	75%	152	92%	124	66%	124	82%	140	86%
なす	80	91%	80	91%	67	92%	60	83%	67	95%	47	73%	34	66%	44	88%
普通トマト	93	91%	126	103%	92	86%	103	104%	134	139%	93	86%	87	100%	88	99%
ミニトマト	37	82%	35	92%	41	122%	30	79%	40	106%	41	103%	33	95%	40	109%
ピーマン	43	84%	41	83%	42	90%	32	62%	39	81%	40	74%	35	72%	38	77%
ばれいしょ	230	80%	264	98%	286	104%	210	72%	263	91%	324	108%	252	88%	305	107%
さといも	11	40%	21	48%	30	68%	29	65%	29	65%	31	68%	39	102%	38	113%
たまねぎ	404	83%	465	85%	636	130%	377	69%	525	108%	527	94%	427	89%	434	87%

(参考) 広島市中央卸売市場における品目別の卸売価格の推移

単位：円/kg

品 目	9月上旬		9月中旬		9月下旬		10月上旬		10月中旬		10月下旬		11月上旬		11月中旬	
	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比
だいこん	97	83%	127	104%	89	78%	78	73%	77	78%	136	127%	116	130%	99	131%
にんじん	88	54%	96	54%	117	69%	110	73%	100	68%	113	80%	182	132%	156	106%
はくさい	126	104%	137	109%	103	102%	67	74%	48	54%	81	89%	89	98%	111	137%
キャベツ	99	98%	117	96%	98	82%	70	62%	56	46%	87	74%	113	98%	109	113%
ほうれんそう	1,105	106%	841	88%	756	107%	726	110%	580	94%	940	183%	1,021	207%	762	157%
青ねぎ	613	95%	587	84%	598	91%	608	95%	509	77%	585	97%	792	138%	903	156%
白ねぎ	324	91%	360	93%	384	106%	381	106%	371	107%	478	141%	413	117%	395	111%
レタス	234	105%	166	62%	125	53%	116	50%	95	46%	230	137%	325	180%	316	195%
きゅうり	328	82%	324	100%	298	96%	281	98%	251	73%	830	253%	534	140%	372	106%
なす	278	84%	315	93%	325	107%	321	106%	288	92%	420	112%	561	139%	509	127%
普通トマト	576	156%	491	120%	444	107%	386	86%	339	81%	343	84%	377	102%	359	103%
ミニトマト	1,086	145%	1,093	117%	967	101%	809	92%	742	92%	787	103%	788	105%	635	102%
ピーマン	451	105%	448	97%	457	111%	401	116%	399	113%	431	120%	683	193%	595	177%
ばれいしょ	116	82%	103	78%	94	79%	98	88%	98	91%	94	87%	96	91%	94	88%
さといも	315	103%	318	105%	283	112%	281	117%	258	109%	304	131%	224	100%	226	96%
たまねぎ	76	62%	72	68%	71	77%	76	89%	72	90%	75	95%	78	101%	82	103%

資料：「広島市中央卸売市場日報」

注：平年比70%以下及び130%以上の数値に色を付けています。

お問い合わせ先 JA 全農ひろしま 園芸課 082-846-4708

冬作ほうれんそうの栽培管理について

県の重点品目である、ほうれんそうの秋冬栽培の留意点について紹介します。

これからは低温期の栽培でほうれんそうの適温に近く、安定して収量も望めます。ただし、湿潤なハウス栽培や露地の透水性の悪いほ場では生理障害や病害の発生が見られます。これらの発生防止に向けた対策を的確に行ってください。

(1) ほうれんそうの黄化症の症状と原因

ほうれんそうの下葉から黄化が始まり、株全体が生育停止し、葉や株の萎縮症状が発生します。

原因は、①湿害②下層土の硬化③有機物不足④平畦による滞水⑤畦立て時の土壤水分過多等が考えられます。



【写真：ほうれんそうの黄化症状 JA 徳島市資料から】

(2) 黄化症の対策

○事前に、ほ場周囲に明きょを設置するとともに、心土破碎で透水性を良くしてほ場内に滞水しないようにします。有機物の施用や緑肥のすき込みで物理性、化学性、生物性の改善を行いましょう。

○湿害の症状が発生したら、溝きりなどの排水処理を行うとともに、条間を中耕して表土を膨軟にします。

○生育回復のため葉面散布用液肥を散布します。

くみあい液肥 1 号	200 倍以上に薄めて葉面散布
くみあい液肥 2 号	200 倍以上に薄めて葉面散布
サンピ 833	750～1000 倍に薄めて葉面散布
ジェイジェイ酸素	滞水後の酸素補給・50～100 倍



(3) ほうれんそうのべと病の発生原因

○伝染源は、被害残さ、被害植物体の菌糸、胞子、種子など様々です。

○伝染様式は土壌、種子、風媒によります。

○発病環境は、適温 8～18℃。曇雨天日の継続と多湿、密植による軟弱な生育、肥料切れになると顕著に発生します。



【写真：葉に発生したべと病】

(4) べと病対策のポイント

○過繁茂、肥料切れに注意する。罹病株はほ場外へ処分します。

○薬剤は初期防除(本葉 3 枚時)を徹底し、薬剤は葉裏等にかかるよう丁寧に散布します。

○抵抗性の品種を活用します。

○薬剤防除は病害発生前、もしくは発生初期に行ってください。

ランマンフロアブル	2000 倍(収穫 3 日前まで 3 回以内)
アリエッティ水和剤	1500 倍(収穫前日まで 2 回以内)

春施用でも間に合う！新たな水稻増収対策

近年収量低下で悩まれている方、土づくり肥料を施用しているが収量が伸び悩んでいる方に新たな「水稻の土づくり体系」をご紹介します。春先施用でも間に合いますので、是非ご検討ください。

(1) 地力の維持向上のための稲わらの役割

収穫後の水田は、土壌から多くの養分が吸収され地力(特に「窒素」と「ケイ酸」)が消費しています。

水稻の生育の約7割が地力窒素に由来しており、有機物施用による地力窒素の供給は重要です。しかし、近年は牛ふん堆肥などの有機物が施用できない場合も多く、また気温上昇により地力の消耗も激しくなっています。そこで、地力の維持向上のために稲わらを有効活用することは非常に重要です。稲わらの養分組成は表1のとおりであり、稲わらの適切な処理によって、水稻にとって重要な養分を供給することが可能です。

表1 施用した稲わらの養分組成(単位:乾物%)

窒素	リン酸	加里	石灰	苦土	ケイ酸
0.68	0.13	1.74	0.37	0.10	10.8

注) 1975～1983年、平均値

和歌山県農林水産総合技術センター農業試験場データ抜粋

しかし、実際は稲わらの腐熟が遅れると異常還元による生育停滞や浮きワラにより作業性が悪くなる、除草剤が効きづらくなるといった悪影響のため、減収につながる場合があります。

刈り取り後の稲わらは有効な土づくり資源！

《10a 当たり稲わら 600 kg分の栄養分》

地力窒素 4.1 kg 加里 12.6 kg ケイ酸 64.8 kg



稲わらをすきこむ場合、気温や土中の温度が低くて分解が進まず、腐熟に長い時間がかかるため、腐熟促進剤(石灰窒素やわらゴールドなど)を使用することで、田植え後のガスわきや初期生育の停滞を抑制することが可能です。しかし、稲わらの腐熟促進に使用する資材は使用時期が限られており、「対策したいけど時期が終わってしまった」という方も多いのではないかと思います。

従来の微生物資材の稲わら分解材の場合、土壌環境によって分解効果が左右されやすいですが、「アグリ革命」は酵素資材のため土壌環境に影響を受けません(図1)。確実な分解効果により、次年度の稲の生育に悪影響を及ぼす「ガスわき」や「浮きわら」を有意に減少させることができます(下図)。適用範囲も広く、田植え1ヵ月前でも効果が確認されています。

10a 当たりの施用量は、細粒タイプが1袋(2kg)、液体タイプ(アクア)は100ml(1本)を希釈して散布します。施用量が少なく非常に省力的です。稲わらが濡れている状態で散布してください。散布後すきこむとより効果的です。



土壌条件や温度、水分によって効果がぶれやすい

アグリ革命アクアはこの過程が必要ありません



図1 稲わらの分解過程

《アグリ革命》

稲わらを強烈に分解する微生物から出る
即効性の酵素を製品化した特許資材！



細粒 2 kg

液体 100ml

液体 500ml

(3)「アグリ革命」×「ミネラル G」→相乗効果で増収、粒張り UP

水稻の土づくりには、「アグリ革命」と「ミネラル G」の合わせ技で地力増進の相乗効果が期待できます。

《期待される効果》

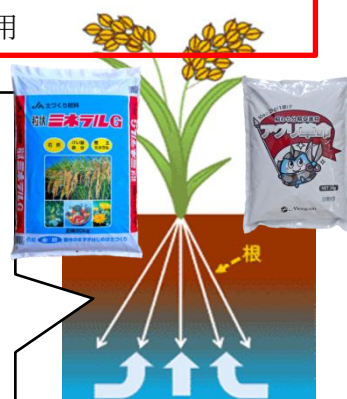
- ① ミネラルG」散布により、酸性土壌を改良したことで微生物が活性化し、稲わらの腐熟促進の活性化
- ② 「アグリ革命」散布による稲わら分解促進により、硫化水素等のガス害が軽減し根が活性化することでケイ酸分の吸収が増加する
- ③ 「ミネラルG」施用によるケイ酸、鉄を中心とした土壌中無機養分の補給
- ④ 「アグリ革命」散布による地力窒素を含めた稲わらに含まれる養分の有効活用



【ガスわきによる生育不良】

ダブル Wの効果！

アグリ革命を使えば、ガス湧きを抑えて、根の環境を改善できる！よって、土づくり肥料や肥料成分の吸収効果が高まる！



(4)平成 29 年度広島県優良事例

場所:安芸高田市管内の隣接3圃場

品種:コシヒカリ

試験概要:平成 29 年 3 月末に各種資材を散布

結果:



無施用区はほとんど倒伏した。アグリ革命+ミネラル G 区は、穂数が多く粒張りも良かったので、大幅増収となった。

	10株	平均(cm)	千粒重	10a実反収
無 施 用	稈長	89.7	22.1g	432.6kg 100%
	穂長	17.4		
	穂数	24.3		
ミネラルG 200kg /10a	稈長	88.9	22.2g	454.5kg 105%
	穂長	16.9		
	穂数	27.2		
アグリ革命 ミネラルG 200kg /10a	稈長	86.2	22.6g	534.4kg 123%
	穂長	17.7		
	穂数	29.7		



無施用区に比べて、併用区は約 100 kg/10a 増収しました。

買取価格 6,000 円/30 kgの場合、無施用区に対して、約 20,000 円、

収入増したこととなり、資材費や散布労力を加味しても、大きく収益向上した結果となりました。

無施用

ミネラル G

ミネラル G
アグリ革命

《新たな水稻増収対策としておすすめします！》



「水稻雑草防除の省力技術」 担い手アグリサミットでも紹介！

平成 29 年 11 月 28 日～29 日に、東広島市河内町の JA 西日本営農技術センターで「JA グループ広島 担い手アグリサミット」を開催しました。多くの担い手に来場いただき、研修会、実演会、展示ブース、セミナーを通して、新しい技術や資材などトータル生産コスト低減に繋がる取り組みをご提案しました。

アンケートの結果、肥料農薬関係の展示ブースやセミナーのなかで、特に参考になったとのご意見を多くいただいた「水稻雑草防除の省力技術」についてご紹介いたします。

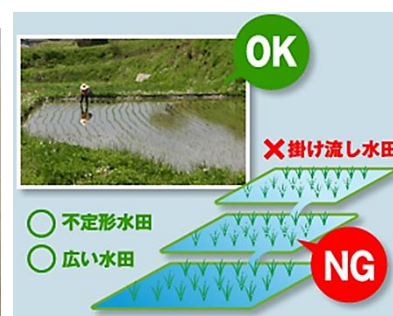


(1) 水口に専用の除草剤をセットして流し込み処理！省力除草「顆粒水口処理」

①水口処理とは？

水口に専用の除草剤をセットし、入水するだけで水田雑草を防除する省力的な処理方法として、注目を集めています。大規模圃場でも歩き回って散布する必要がなく、従来の省力剤型（ジャンボ剤など）と比較しても薬剤処理作業の大幅な省力化（労働力・時間）につながります。また、圃場の形状に左右されず散布できる点も本剤の特徴です。

顆粒製剤をメッシュ袋に入れて水口にセット！



②顆粒剤型の品目

◆ **コメット顆粒** ●規格:80g(10a 分) ・ 4kg(80g×50 個)【50ha 分】

※4kg 規格は受注生産のため発注については JA にご確認ください

クログワイなどの塊茎形成を阻害し、達効を示します。また、**オモダカ・コナギ・アセナ**類といったSU抵抗性雑草に対する効果も増強されている。

◆ **シリウスエグザ 顆粒** ●規格:80g(10a 分)

4つの成分を時間差で作用させることにより、**水田一年生雑草から多年生雑草まで**高い効果を示します。発生タイミングの異なる様々な草種に対して有効です。

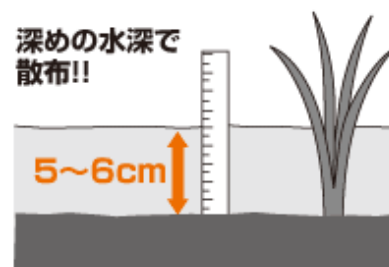


(2) 豆つぶ製剤

① 豆つぶ剤とは？

直径が 3～8 mmと大きく、小豆大の大きさです。散布すると水面を浮遊しながら有効成分を拡散していく「自己拡散型製剤」です。250gと軽量なことから、優れた拡散性から省力性・安定性の高い製剤として注目を集めています。

手まきやひしゃくでの散布も可能であり、動力散布機を使用しなくても短時間で処理できます。



豆つぶ製剤のイメージ

ひしゃくでの散布の様子

② 豆つぶ剤の品目

豆つぶ剤には、除草剤(初期・一発・中後期)、本田防除剤があり、ラインナップが増えてきています。特に、大規模な圃場でも、ノビエが発生した場合の残草対策として「ヒエクリーン豆つぶ」を使用されるケースが増えてきています。



初期除草剤



一発除草剤



後期除草剤



本田防除剤



分 類	製 品 名 【 規 格 】	
水稻初期除草剤	ショキニー250 グラム【250g・2.5kg】	
水稻初中期一発除草剤	パットフルエースL250 グラム【250g】	
水稻後期除草剤	ヒエクリーン豆つぶ 250【250g】	
水稻殺菌剤	オリブライト 250G【250g】	コラトップ豆つぶ【250g】
水稻殺虫剤	スタークル豆つぶ【250g】	
水稻殺虫殺菌剤	ワイドパンチ豆つぶ【250g】	

お問い合わせ先 JA 全農ひろしま 肥料農薬課 082-846-4705

新たな担い手づくりの拠点として ～チャレンジファーム広島・三原農場開設～

J A全農ひろしまは、J A三原と連携し三原市高坂町に「チャレンジファーム広島・三原農場」を開設しました。

この農場は、研修生が模擬経営を含む実践型研修を行うことを目的とし、県域重点品目の一つであるトマトをメインに栽培します。三原市とも連携し、新たな担い手と産地づくりに取り組みます。

また、研修施設は、研修生が独立した際に導入することを想定した低コスト型のパイプハウス4棟と農業ICT等の導入も想定した鉄骨連棟ハウス2棟、露地圃場を加えた計5,734㎡の圃場と事務所・倉庫施設を備えています。

今後、J A全農ひろしまの営農技術拠点である「J A西日本営農技術センター」（東広島市河内町入野）での基礎研修とセットにした研修体系を構築し、本農場の研修修了生が当農場の周辺地域に就農することによる産地振興を目指します。

なお、平成30年4月からの研修生の募集を開始しております。詳しい内容については「[広島農業応援ガイド \(http://hiroshima-nougyou.jp/\)](http://hiroshima-nougyou.jp/)」をご覧ください。

【営農支援室】



肥料の銘柄集約・共同購入運動の実施状況について

J Aグループでは、農家手取り最大化に向けた農業改革の一環として、「肥料銘柄の集約と共同購入運動」に取り組んでいます。その結果、全国で400銘柄を17銘柄に絞り込み、7万トン以上の予約注文をいただきました。この予約数量をもとに入札を行った結果、基準価格より1～3割程度の価格引き下げが実現できました。

なお、広島県での成果については、下記のとおりです。【肥料農薬課】

【広島県での成果】

